

中京大学を知ろう！



しんけんみ
【校訓】「真剣味」

「知・体・徳」バランスとれた
人間形成めざす

真 剣 味

学 力 知 体 力 体 人間力 徳

【建学の精神】「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」



【梅村 清光】(1882-1933)

中京商業学校(現・中京大学附属中京高等学校)の開設者で、学校法人梅村学園の学祖にあたる。

旧水戸藩士・梅村清倫(きよなみ)を父として茨城県水戸市に生まれた。父親と同じく就職者の道を目指し、茨城師範学校に学んだ。21歳で同県内の小学校長に就任。山口県、愛知県各々で教壇に立った後、41歳の時、中京商業学校を開設した。

写真は、当時の中京商業学校校長室にて。

1923(大正12)年、梅村学園の学祖・梅村清光は「真理は今昔を問わず文武両道にあり」との確信のもと、校訓「真剣味」の実践を掲げ、中京商業学校(現・中京大学附属中京高等学校)を開校します。真剣味の実践とは、何事にも真剣に取り組み、研鑽を説いた武士道精神に基づく教育方針です。

1933(昭和8)年、学園を継承し、後に中京大学を設立することになる学父・梅村清光は、校訓を建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」へと進展させ、学力(「真」)、体力(「剣」)、人間力(「味」)のバランスのとれた人間形成を教育の基盤としました。その意味するところを清光は(四大綱)として次のように明らかにしました。

梅村学園の建学の精神の要約は「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」である。

すなわち、学術の場では学術の研鑽と共にジェントルマンシップ、レディシップを醸成陶冶する。スポーツの場では健康の増強、心技の練成と共にスポーツマンシップを体得する。スポーツマンシップ イズ ジェントルマンシップ。スポーツマンシップとは、

- 1) ルールを守る、 2) ベストを尽くす、
- 3) チームワークをつくる、 4) 相手に敬意を持つ

この四大綱を内容とする。このような精神の体得者は個人としても、家庭人としても、社会人としても、国民としても、世界人類の一人としてもまことに望ましい人間である。このような教育は如何なる国の如何なる時代においても肯定され、歓迎される本質を有する。梅村学園はこの建学の精神を教育の基盤として永遠に堅持高揚を期する。

1988年2月18日

学校法人 梅村学園 総長・理事長 梅村 清明

梅村学園 理事長

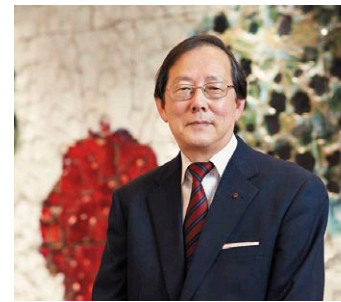
- 初代 梅村 清明(1948-1987)
- 2代 梅村 清弘(1988-2010)
- 3代 小川 英次(2011-2012)
- 4代 梅村 清英(2013-)



4代理事長 梅村 清英

中京大学 学長

- 初代 梅村 清明(1954-1971)
- 2代 小山 福松(1972-1979)
- 3代 梅村 清弘(1980-1987)
- 4代 松田 岩男(1988-1992)
- 5代 北澤 正啓(1992-1999)
- 6代 小川 英次(2000-2006)
- 7代 北川 薫 (2007-2014)
- 8代 安村 仁志(2015-)



8代学長 安村 仁志

中京大学 学歌

作詞 ◆ 梅村 清明 作曲 ◆ 近藤 仙次郎

1. 大和島根の 中京の
八事ヶ丘に 名も高き
母校よ 森よ 学友よ
時代を導く 学術の
泉をくまん わが理想
春の桜と やがて咲け
起てよ 中京 中京の
歴史燦たる 旗かざし

2. 濃尾の天地 英気あり
栄ある丘に 集い来て
身技鍛えん 若き血に
進取の鐘は 響くかな
いざ 伝統の 真剣味
正義の学を 究めずや
進め 中京 中京の
歴史燦たる 旗かざし

3. 白梅香る 学風に
ああ 研鑽の 師と弟が
ひとしく望む 渺瀰たる
四海の 幸福と 同胞の
文化を高めん わが行手
暴風雨を越えて 進まん
見よや 中京 中京の
歴史燦たる 旗かざし

中京大学スクールカラー

ベーシックカラー



アクティブカラー(3色旗)



1. 前史 ~1953

水戸学「清信塾」~学園創立へ

教育機関としての中京大学の源流は、約300年前、水戸藩の時代にさかのぼります。徳川光圀の『大日本史』編纂に加わった梅村家4代・清茂が晩年の1716(享保元)年、水戸城下に「清信塾」と称する家塾を開き、藩士子弟の教育に当たりました。藩の公文書を扱う要職の傍ら、以後も代々、塾での教育を続け、文教の家として認められていくのです。

梅村家12代・清光が中京商業学校(略称・中商)を開校するのは清信塾から207年の後。今年創立92年を迎える学園の伝統は、すべての学びの始まりである「真剣味」の理念のもと、まず中商で育まれていきました。



④1716年以前に作成された水戸城下の絵図。中央に「梅村源七」の名前
⑤昭和区狭間町にあった中京商業学校の校門・玄関 ⑥開校当時の徽章



2. 開学~発展 4学部時代 1954~1985

入学者75人~卒業生4万人

中京大学は1954(昭和29)年、商科だけの短期大学として入学者75人で開学し、2年後の56年、学生数237人の4年制大学を開設します。梅村清光の遺志を大学へと発展させた初代学長・清明は式典で全学生に呼びかけました。「建学の精神を高く掲げ、中京大学の歴史に輝かしい記録を残そうではないか」。

文系総合大学として発展させることを躍進の鍵に、中京大学は66年、商、体育、文、法学部の4学部体制となります。入学者は豊田キャンパスが完成した70年から2千人の時代に入り、卒業生は開学30周年を経た85年に4万人となりました。



④2つの校札が並んだ正門(1955年)
⑤初代学長・梅村清明



⑥名古屋キャンパス全景(1963年)



⑦開設当時の豊田キャンパス正門(1971年)

3. 躍進、学部増設の時代 1986~2000

開かれた大学、総合大学へ

中京大学は進取の気風が息づいている大学です。1980年から学長、理事長を31年務めた梅村清弘(現・名誉総長)は、21世紀に向かう時代を新たな学問の開拓、社会の要請に応える人材育成の時ととらえ、次々に新たな境地を拓いていきました。5番目の学部となる社会学部(86年)に続き経済学部(87年)、高度経済成長下の産学協同を理念に掲げた情報科学部(90年)の開設、商学部を改組した経営学部(91年)、日本の大学における最初の心理学部(2000年)の設置です。名古屋センタービルの完成(1994年)に際しキャンパスを地域に開放した施策と併せ、中京大学の改革と躍進は驚きをもって迎えられました。



④名古屋キャンパスに完成したセンタービル(1994年)
⑥学長・理事長を31年務めた学園中興の梅村清弘
⑦年々充実していく豊田キャンパス(1999年)

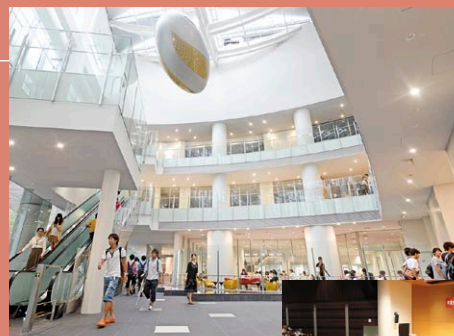


4. しなやかに、変革の時代 2001~

伝統を未来に、新しい大学への挑戦

中京大学は2001年以降も国際英語、総合政策、国際教養学部の開設とスポーツ科学部、工学部の改組を行い、11学部を擁する総合大学となりました。教育研究の充実とともに、学生の活躍も年々顕著になっていきました。52人のオリンピック選手を輩出してきた伝統のスポーツでは陸上、水泳、サッカー部など多くのクラブが全国トップの成果をあげています。

また、企業と連携した商品開発や社会貢献活動、文化活動の広がりも定着しました。大学は今、自ら考え行動する、しなやかな知識人の育成を次の10年のミッション(NEXT10)としています。卒業生11万人が拠って立つ建学の精神を未来に活かす、新たな挑戦なのです。



④名古屋キャンパス図書館・学術棟のエントランス
⑥清明ホールでの公開講演会
⑦豊田キャンパス・トレーニングガーデンから教育複合棟を望む



2023年、梅村学園の創立100周年に向けて

中京大学をはじめ5つの教育機関を傘下に持つ学校法人梅村学園は、2023年に創立100周年を迎えます。「真剣味」の実践は学園を貫く校訓として受け継がれ、名古屋・豊田キャンパスでは中京大学と附属中京高等学校の高大連携教育が、また三重県松阪キャンパスでは三重高等学校と三重中学校による中高一貫教育が行われています。

